

デジタルパネルメーター

渡辺電 生産能力3割増

国内再編 福島で体制整備

半導体製造装置需要に対応

渡辺電機製造（東京都渋谷区、渡辺秀禧社長）は、半導体製造装置に内蔵するデジタルパネルメーターの生産能力を3割引き上げた。同製品が主力の福島工場（福島県桑折町）から信号変換装置関連を調布工場（東京都調布市）に移管。福島工場でセル製造ラインの自動検査体制を強化するなど国内生産体制の再編による生産増強で、半導体製造装置の需要増に対応する。今後、工場スペースの有効活用で、さらなる生産設備の増強を検討する。



半導体製造装置に欠かせない「AM-215B」

プラント向けなどを手がけ、余力があった調布工場に信号変換装置などの生産を移管。福島工場の空きスペースや人員を活用し、直流の電流・電圧を瞬時に表示するデジタルパネルメーターの増産に向け製造ラインを再編した。半導体製造装置に欠かせない「WPMZ」

「AM-215B」シリーズを強化する。福島工場は約3600万円を投じて自動検査体制を順次構築しており、現在は全製品の9割の検査を自動化した。結果は全て電子データで保存している。これまで検査ミスは少なく、納品の遅れもほとんどないという。

渡辺電機製造は、計測制御機器の製造を手がける。渡辺電機工業（東京都渋谷区）の製造部門を切り出し、17年に設立した。デジタルパネルメーターは国内トップシェア。